

# JAPAN HOUSE

---

SÃO PAULO

---

LONDON

---

LOS ANGELES

JAPAN HOUSE 実施報告書

————— 2024年3月 —————

# JAPAN HOUSE

## 来館者数

### JAPAN HOUSEの展望

日本の多様な魅力や様々な政策・取組を発信する施設として設置されたJAPAN HOUSEは、3拠点とも各都市のランドマークへと成長し、着実にその存在感を拡大してきています。2020年から21年にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響により閉館や開館時間の短縮を余儀なくされましたが、2023年には来館者数がほぼコロナ禍以前の水準に戻り、開館時からの累計来館者数は3拠点合計で610万人（2024年2月現在）を超えています。2024年は、サンパウロが7年目、ロンドンとロサンゼルスが6年目を迎え、さらなる飛躍が期待されます。近年日本のソフトパワーが益々注目される中、JAPAN HOUSEが日本への関心・理解・支持を広げる一助となるよう引き続き積極的に事業を展開していきます。

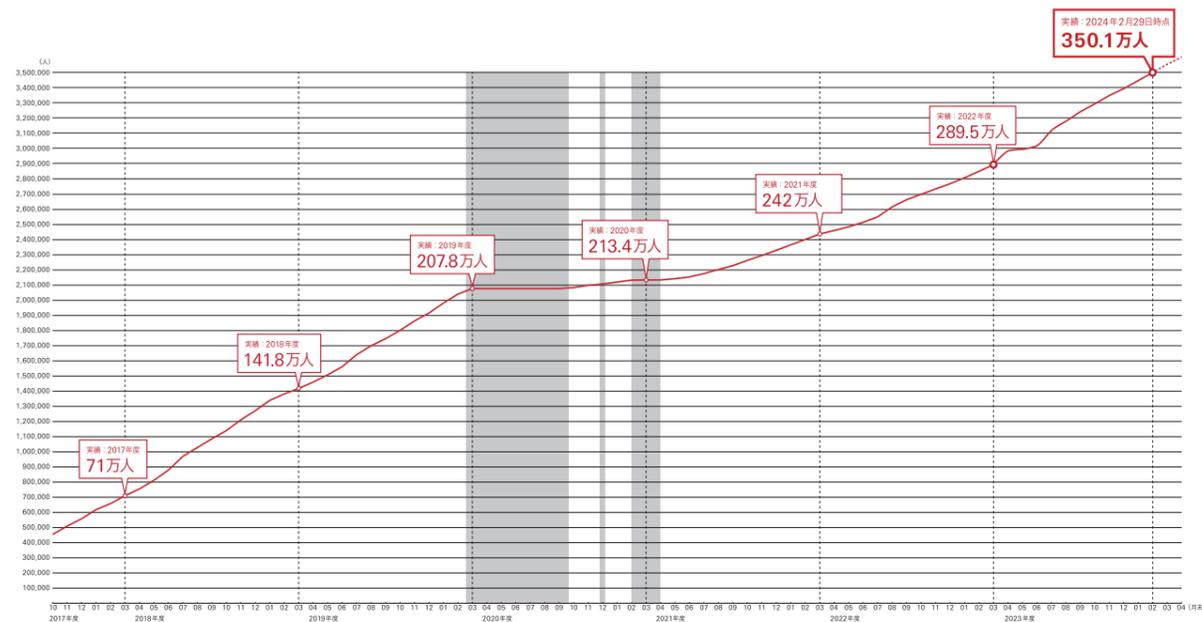
3つの拠点は同様に、展示ギャラリー、多目的ホール、ライブラリー、レストラン、ショップの機能を持ち、来館者が多面的に日本を感じることができるよう設計されています。展示ギャラリーでは様々な分野のクリエイターと連携して展示会を開催し、また、多目的ホールでは企業や各種団体のみならず、政府機関や自治体等と協力して多様なイベントを実施しています。コロナ禍からの回復後は、特に日本政府観光局（JNTO）や自治体・観光団体等と協力して、日本の地域の魅力の発信やインバウンド促進に力を入れています。

JAPAN HOUSEの大きな魅力の一つは各拠点で3～4か月毎にテーマを変えて実施している企画展示です。対日理解の促進を目的とした発信施設として、日本のアートや工芸を単に紹介するのではなく、展示品の歴史的・文化的背景や経済・産業的な側面なども盛り込むなど、工夫を凝らした丁寧な説明を行っています。2023年度を振り返ると日本で公募選定した企画を3拠点に展開する「巡回企画展」として4企画（WAVE、Symbiosis、KUMIHIMO、DESIGN MUSEUM JAPAN）、また、各拠点で独自に企画して展示する「現地企画展」として「ロボットとの共生」展や「NIHONCHA」展（サンパウロ）、「Ainu Stories」展（ロンドン）、「POKÉMON×KOGEI」展（ロサンゼルス）等合計7企画を開催しました。また、他の文化施設やギャラリーと連携し、JAPAN HOUSEで開催した展示を他の都市や国で展開する取組も引き続き行いました。

JAPAN HOUSEでは、その強い訴求力を活かして、講演やセミナーの形で日本の政策・取組についても積極的に発信しています。現在「旬」であるテーマを中心に設定し、各分野で活躍する方々に登壇いただくことにより、対日理解を促進する重要な機会を提供しています。外交、経済、環境・気候変動、科学技術・イノベーション、ダイバーシティ、インバウンド促進等の幅広い分野について実施しており、大学関係者、政府関係者、企業関係者、シンクタンク、宇宙飛行士、俳優等様々なバックグラウンドの方々に登壇いただいています。

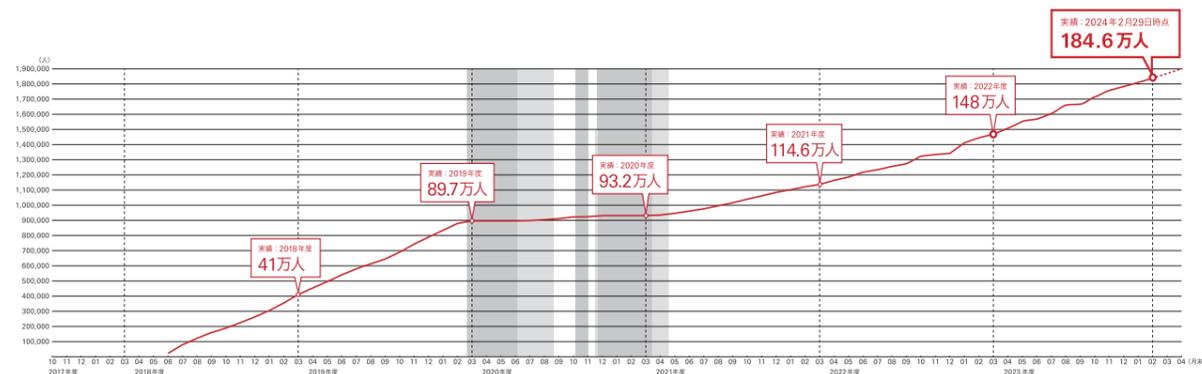
日本への理解・共感を深める発信の舞台として、また、ビジネス・インバウンドの機会創出や知的交流を生み出すプラットフォームとして、さらなる発展を目指します。

※ グラフは各月の末日の集計  
※ 新型コロナウイルス感染症対策による休館期間  
■ 全館休館 ■ 一部休館



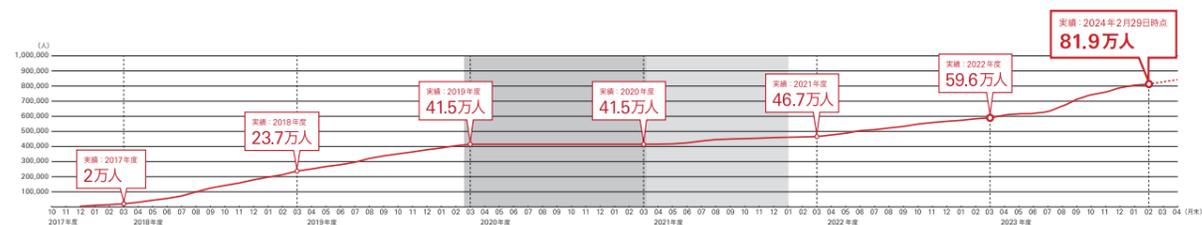
#### サンパウロ | 2017年4月開館

サンパウロ市内の主要な文化施設として定着しており、2023年度には累計来館者数が350万人を突破。2023年度はロボット等の先端技術、日本茶の種類や茶道文化、日本で広く親しまれてきた玩具、日常にある物を別の物に見立てたミニチュア作品などについて発信。2024年度は横展開（サンパウロ以外の都市での展示）などを通し、国内のみならず他の中南米諸国での発信も強化していく。



#### ロンドン | 2018年6月開館

開館5周年を迎え、2023年度には累計来場者が180万人を突破。2023年度はアイヌ文化をテーマにアイヌの伝承や伝統工芸を紹介するとともに、現地の文化施設、日本の地方自治体、日英各分野の専門家と連携して日本の地域の魅力を発信するための様々な企画展示を実施。2024年度も引き続き良質で意欲的な企画の実現を目指していく。



#### ロサンゼルス | 2017年12月一部開館、2018年8月全館開館

コロナ禍による影響から着実に回復しており、2023年度には累計来館者数が80万人を突破。2023年度は「POKÉMON×KOGEI」が大きな成功を収め、ジャパン・ハウスの存在感を一層拡大。またハリウッドという地域性を活かし、日本映画のグローバルな発信に協力。2024年度も地方自治体や企業等と連携して、食、映画、伝統技術をはじめ多面的な発信を実施する。



## サンパウロ

2017年4月に開館したジャパン・ハウス サンパウロでは、建築、技術、食、ファッション、芸術など様々な日本の魅力をテーマに展示企画を展開してきました。コロナ禍を経て、展示（リアル）とデジタル双方の強みを最大限に活用した発信を行っており、また、多言語発信やブラジル国内外（クリチバ、ポルト・アレグレ、ベレン、レシフェ、アルゼンチン、メキシコ、ペルー）での横展開（サンパウロ以外での展示）など、中南米への発信を強化しています。

2023年度は、日々の暮らしに豊かさや活力を与えている「デザイン」に焦点を当て各クリエイターが特別なBOXに詰め込んで紹介する巡回企画展「DESIGN MUSEUM JAPAN：日本のデザインを探る」展、華道家・片桐功敦氏が制作したインスタレーションを通じ「人と自然」の共存の重要性を表現した「エッセンス：内なる庭」展、日常にある物を別の物に見立てて日本の風景や文化をミニチュアで表現した「ミニチュアの視点で見る日本-田中達也」展、日本のロボットのフレンドリーな側面に着目した「ロボットとの共生」展、世代を超えて現代でもその形と有り様を変えて親しまれている玩具を紹介する「童心：日本のおもちゃの魅力」展、日本茶の種類や茶道文化に焦点を当てた「NIHONCHA」展を開催しました。

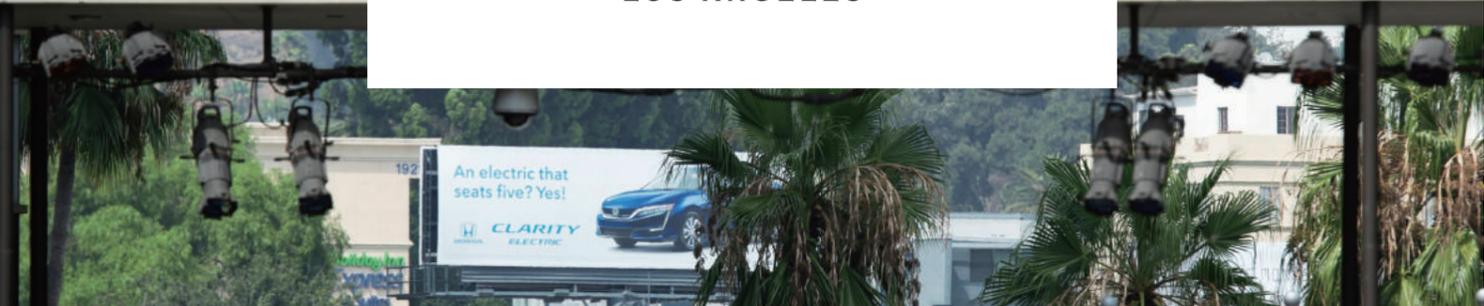
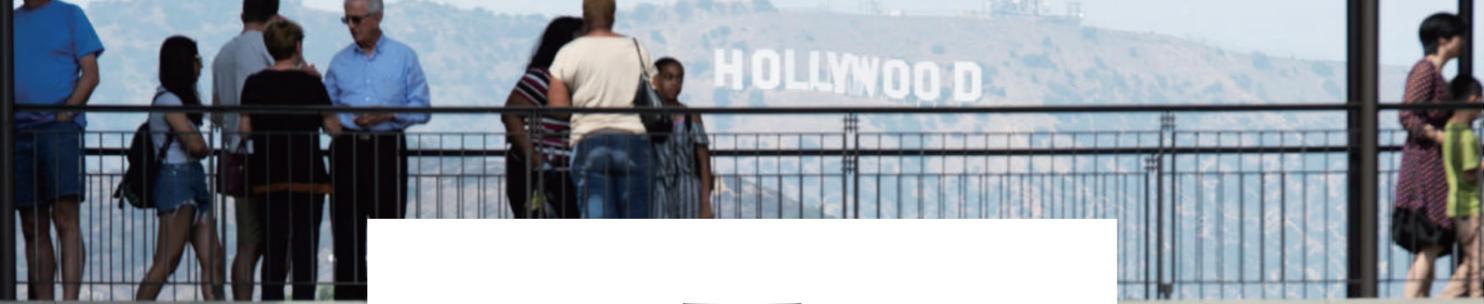
また、日本の政策・取組の発信については、外交・安全保障（ロシアのウクライナ侵略への対応含む）、核軍縮・不拡散、中南米との貿易関係、日伯宇宙協力など多岐にわたるテーマについて、著名シンクタンクとも連携したのもも含め、積極的に講演・セミナー等を実施しています。

## ロンドン

2018年6月の開館以来ジャパン・ハウス ロンドンでは、日本の伝統的な職人技から最先端の科学技術に至るまで幅広いテーマを扱った企画展示を行っています。企画の実施にあたっては、展示品の紹介にとどまらず、その歴史・文化・経済を含めた様々な側面にも触れつつ、より深い理解へとつながるよう工夫を凝らすことを心がけています。

2023年度は、組紐をテーマに、その歴史や数学的な構造的特徴を紹介しながら、未来のファッション・アート・科学における可能性を探る「KUMIHIMO」展、欧米諸国とは異なる独自の発展を遂げた日本のイラストレーションとグラフィックアートの多様性を体験できる「WAVE」展、そして11月からは北海道平取町二風谷地区を中心としたアイヌ文化における伝統の継承と発展を紹介する「Ainu Stories」展を開催しました。この他、日本の地域と伝統遺産やその技法、歴史文化の発信も積極的に実施しており、JNTOの協力のもとスタートした、日本の各地域の多彩な魅力を紹介する「Spotlight on Local Japan」プロジェクトでは、沖縄の伝統工芸「琉球紅型」のイベントや富山県の和菓子職人によるデモンストレーションを実施しました。

また、日本の政策・取組の発信については、外交・安全保障（台湾問題及び欧州のインド太平洋への関与含む）、拉致問題、日英関係（日英戦略的パートナーシップ含む）、ソフトパワー、ASEAN、CPTPPとインド太平洋の経済秩序、食料安全保障、インバウンド促進、G7とグローバルサウスなど、多岐にわたるテーマについて、著名シンクタンクと連携したのもも含め、積極的に講演・セミナー等を実施しています。



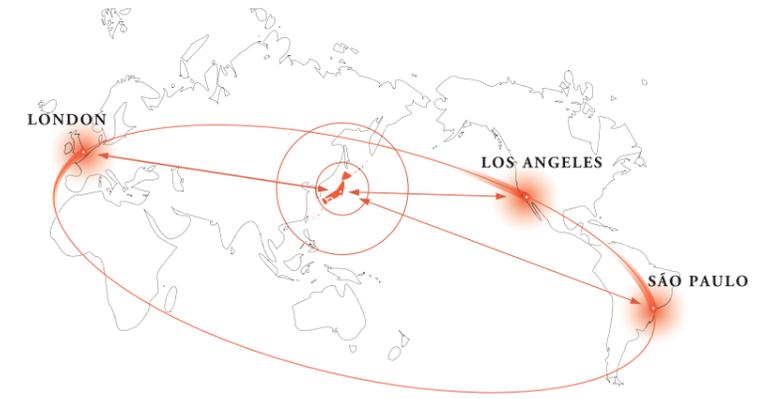
## ロサンゼルス

2018年8月に全館開館したジャパン・ハウス ロサンゼルスでは、エンターテインメント産業の中心地ハリウッドという地域性を活かし、日本の魅力を多角的に伝える事業を展開してきました。日本各地の伝統や文化、価値観に触れつつ、人々が共鳴共感し、自分のライフスタイルに日本を取り入れたいと思ってもらえるような発信を心がけています。

2023年度は、瀬戸内海の犬島で進められてきたアートとランドスケープのプロジェクトを紹介する「シンビオシス：生きられた島」展、日本の著名な工芸作家たちが「ポケモン」を題材に制作した作品を紹介する「POKÉMON×KOGEI」展、「デザイン」に焦点を当て各クリエイターが特別なBOXに詰め込んで紹介する「DESIGN MUSEUM JAPAN:日本のデザインを探る」展を開催しました。さらに開館5周年を祝う「JHLA 5th Anniversary Celebration」では、日本食の屋台が並ぶ会場で、日本人ミュージシャンのMIYAVIをはじめ、和太鼓や津軽三味線等の伝統楽器奏者も加わった和と洋が融合した音楽ライブを実施。また日本茶や畳のワークショップ、精進料理と禅の体験イベント等も実施しました。

また、日本の政策・取組の発信については、外交・安全保障（「自由で開かれたインド太平洋」含む）、日米関係、経済安全保障、核軍縮・不拡散、日本の農林水産物・食品の輸出促進及び日本食の普及、気候変動・水素エネルギー、科学技術・イノベーション、ダイバーシティ・女性活躍、被災地復興・防災など多岐にわたるテーマについて、著名シンクタンクや大学と連携したものも含め、積極的に講演・セミナー等を実施しています。

## 巡回企画展と 各拠点での企画展



JAPAN HOUSEは、内容のしっかりとしたコンテンツを、常態的に受け入れる現地側の体制と、海外3拠点を情報発信拠点として活用しようとする日本側の能動性がかみ合うことでプロジェクトが形成されています。

3都市の拠点には、館長や局長がおり、現地では彼らが中心となり、施設運営の姿勢、開催する展覧会の吟味等において管理をしています。

ギャラリーで開催される展覧会は、日本での公募を経て選出された「巡回企画展」と各拠点で企画・制作された「現地企画展」があります。各都市の企画展は互いに利用し合い、生き生きとした情報発信力のある展覧会により日本と3拠点に脈動と連携が生み出されてきています。いずれの展覧会も、ハイカルチャーからサブカルチャー、ハイテクノロジーにも正面から向き合います。

### JAPAN HOUSE São Paulo

名誉館長：ルーベンス・リクペロ  
館長代行：カルロス・アウグスト・ホーザ  
企画担当局長：ナターシャ・バルザーギ・ジーネン  
運営担当局長：クラウジオ・ハジメ・クリタ  
経理担当局長：ヒカルド・フェハス

### JAPAN HOUSE London

館長：サム・ソーン  
企画局長：サイモン・ライト  
経営企画局長：キャロリン・バーネット  
マーケティング&コミュニケーションズ局長：ハイディ 伊佐  
財務・コンプライアンス局長：ロジーナ・シングルトン

### JAPAN HOUSE Los Angeles

館長：海部優子  
総務局長：ヒロコ・ジョンソン  
PR・マーケティング局長：中之内里沙  
企画 & 事業開発チーフプロデューサー：スカイ・ホワイトヘッド  
シニアリエゾンオフィサー：森田和頼  
名誉顧問：ラリー・エリソン  
アドバイザー：YOSHIKI

シンビオシス: 生きられた島  
Symbiosis: Living Island

企画者:  
Hasegawa Lab+SANAA

瀬戸内海の犬島で2008年から進められてきたアートとランドスケープのプロジェクトを紹介する展覧会。高齢化が進んだこの小さな島における活動を、地方活性化やエコロジーなどの視点から問いかける。アート、建築、さまざまなプログラムと、内外の人々との交わりから導かれる日本的な共生の美学を世界に発信する。

巡回スケジュール	巡回地	来場者数
2021年11月30日—2022年2月6日	サンパウロ	76,636人+オンライン展示継続中
2022年5月21日—9月4日	ロンドン	83,621人+オンライン展示継続中
2023年4月15日—7月5日	ロサンゼルス	20,084人+オンライン展示継続中

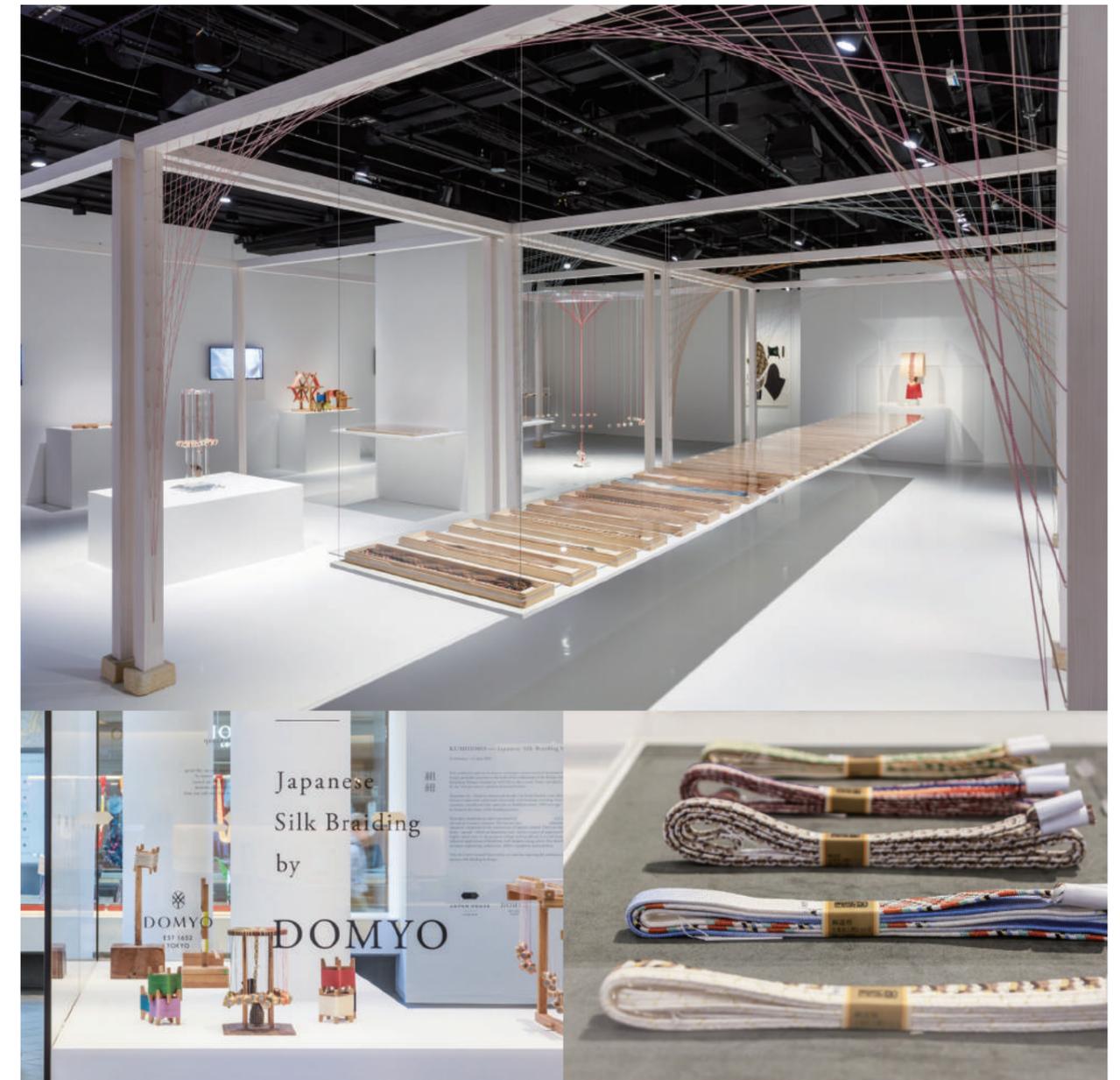


KUMIHIMO:  
The Art of Japanese Silk Braiding by DOMYO

企画者:  
株式会社道明

組紐をテーマに、一条の紐に宿る魅力、潜在的な可能性を明らかにする展覧会。復元作品のアーカイブから紹介する歴史的展開、数学・工学系研究により導出される構造的特徴、そして現代のファッション、アート、建築など多彩な分野で活躍する才能と組紐の協働を総合し、古くて新しい組紐の魅力を伝える。

巡回スケジュール	巡回地	来場者数
2021年12月11日—2022年3月6日	ロサンゼルス	7,557人+オンライン展示継続中
2022年5月24日—10月23日	サンパウロ	212,668人+オンライン展示継続中
2023年2月23日—6月11日	ロンドン	116,039人+オンライン展示継続中



WAVE:  
New Currents in Japanese Graphic Arts

企画者：  
ヒロ杉山、高橋キンタロー

\*\* オンラインにて配信中

昭和期の経済成長を背景に、欧米諸国とは全く異なる独自の発展を遂げた日本のイラストレーション。現代および未来に活躍するクリエイティビティを結集し、日本のサブカルチャー文化の核ともなりうる今日のイラストレーションの魅力の世界へ伝える展覧会。

巡回スケジュール	巡回地	来場者数
2021年9月18日—11月28日	ロサンゼルス	6,422人+オンライン展示継続中
2022年2月21日—5月1日	サンパウロ	79,584人+オンライン展示継続中
2023年7月6日—10月22日	ロンドン	137,949人+オンライン展示継続中

企画展関連イベント

イベント

ギャラリートゥアー

2023年7月6日—7月9日

出演：ヒロ杉山、高橋キンタロー  
開催拠点：JAPAN HOUSE LONDON

企画者による本展覧会の舞台裏を紹介するギャラリートゥアー。アーティストたちのインスピレーションやお気に入りの技法を詳しく知ることができるほか、日本のグラフィックアートにおける新しい流れを発見することができる。



ハイブリッドイベント \*\*

「波 (WAVE)」をおこす  
ヒロ杉山と高橋キンタロー対談

2023年7月7日

出演：ヒロ杉山、高橋キンタロー  
開催拠点：JAPAN HOUSE LONDON

アーティストであり、共同キュレーターでもあるヒロ杉山氏と高橋キンタロー氏によるパネルディスカッションを実施。日本のグラフィックアートとイラストレーションの真の姿や、展覧会のキュレーションに対するアプローチについて語った。



ハイブリッドイベント

WAVE レイト・ナイト

2023年9月15日、10月20日

出演：ヒロ杉山、Takahiko (DJ Takaki), Hara Takayuki  
開催拠点：JAPAN HOUSE LONDON

Takahiro氏のDJセットを使った、キュレーターのヒロ杉山氏によるVJパフォーマンス他、アーティストHara Takayuki氏によるドローイングデモンストレーションやオリジナルのバッジを作成できるワークショップなど、WAVE展の創造性や色彩を体感できる夜のイベントを実施。



DESIGN MUSEUM JAPAN:  
日本のデザインを探る

企画者：  
日本放送協会、  
株式会社NHKプロモーション  
株式会社NHKエデュケーショナル

企画者の声

「日本のデザインミュージアム」の姿を探しに。

平田直樹 | NHKプロモーション チーフプロデューサー  
倉森京子 | NHKエデュケーショナル チーフプロデューサー

縄文時代より1万年以上続く生活文化の中で、地域ごとに独自のデザインを育んできた日本。日々の暮らしに豊かさや活力を与えている「デザイン」に焦点を当て、日本の知られざる側面を探る。1万年前の暮らし方から、21世紀に生まれた楽器、そして、最先端のスポーツウェアまで、日本人が作ってきた様々なモノやコトを世界の一線で活躍するクリエイターたちがリサーチ。「デザイン」というフィルターを通すと見えてくる輝きを特別なBOXに詰め込んで紹介。

第5期の巡回企画として採用していただいた「DESIGN MUSEUM JAPAN」展は、日本各地の資料館や博物館などにある〈デザインの目〉で見たら輝くモノやコトを、資料や映像をはじめクリエイターの言葉で紹介するプロジェクトです。海外展を準備するにあたり、我々が注意したのは、各地でどのように受け入れてもらえるのか、伝わるのかということです。日本では伝わる内容が、同様のテキストや展示で他の国でも伝わるのか。興味を持ってもらえるのか。各地のJAPAN HOUSEの皆さんと、オンラインで何度も打合せを重ねながら、一緒に展示を作っていました。苦勞したことのひとつが海外輸送です。特にブラジルは、カーニバル直後の3月に開幕、カーニバル期間を考慮すると通関手続きに数週間を要する可能性があるとの情報があり、早めに輸送を始めました。カーニバルの前に届いた荷物が、運よく？カーニバルまでの数日で通関を通ったことは驚きでした。

巡回スケジュール	巡回地	来場者数
2023年3月28日—6月11日	サンパウロ	122,394人+オンライン展示継続中
2024年1月26日—4月14日	ロサンゼルス	集計中
2024年5月15日—9月8日（予定）	ロンドン	—



地球の裏側から大切に運ばれてきた縄文土器やコマなどを、サンパウロの皆さんがとても丁寧に、大切に扱ってくださり、ステキな展示に仕上げてくれました。

「あなたにとってデザインとは?」「おすすめのデザインを教えてください」という参加型ワークショップには多くの方が参加し、壁がメッセージでいっぱいになりました。

その他、現地に入り展示作業を進めていく中でも様々なトラブル（色が予定と違う、電子機器の規格が違うなど）がありましたが、企画チームだけでなく、輸送・ロジスティクス、マーケティング、運営と様々な部署の皆さんがファミリーのように一緒に展示を作り上げてくれました。日本の魅力、文化の発信に自分事として携わる皆さんの姿勢にとても感動しました。

ワークショップ開催期間  
サンパウロ：2023年3月28日—6月11日  
ロサンゼルス：2024年1月26日—4月14日

今、日本には訪日外国人が多数訪れています。彼らの興味を掻き立てている日本の魅力の根底には、デザインのチカラがあると思います。本企画展を海外で、様々な角度から見ていただき、その反応を受けとることで、このプロジェクトの面白さと、日本のデザインの魅力を再認識することができました。

「DESIGN MUSEUM JAPAN」展の来場者が、今度は日本の各地を訪れ、新たな発見や体験をし、豊かな時間を過ごしてもらえることを願っています。



## JAPAN HOUSE SÃO PAULO 企画 2023年度

### 企画展

ミニチュアの視点で  
見る日本—田中達也

2023年5月16日—10月15日

来場者数：311,087人

〈オンライン展示継続中〉

コンテンツホルダー：株式会社MINIATURE LIFE・田中達也  
Photo：Marina Melchers

あるものをそれと似た別のもので示し、新たな解釈や可能性を提案する日本の伝統表現「見立て」という概念のもと創り出される田中達也氏の作品を通して、お花見や存在感のある富士山、回転寿司、伝統工芸、武道、伝統行事など日本の風景や文化を紹介。



### 企画展関連イベント

#### イベント

Lecture “Discovering the  
World of Miniatures  
by Tatsuya Tanaka”

2023年5月16日

出演：田中達也

Photo：©Tatsuya Tanaka

田中達也氏による、作品の制作過程や、インスピレーションを受けた「見立て」に関するセミナーを実施。



### 企画展

童心：  
日本のおもちゃの魅力

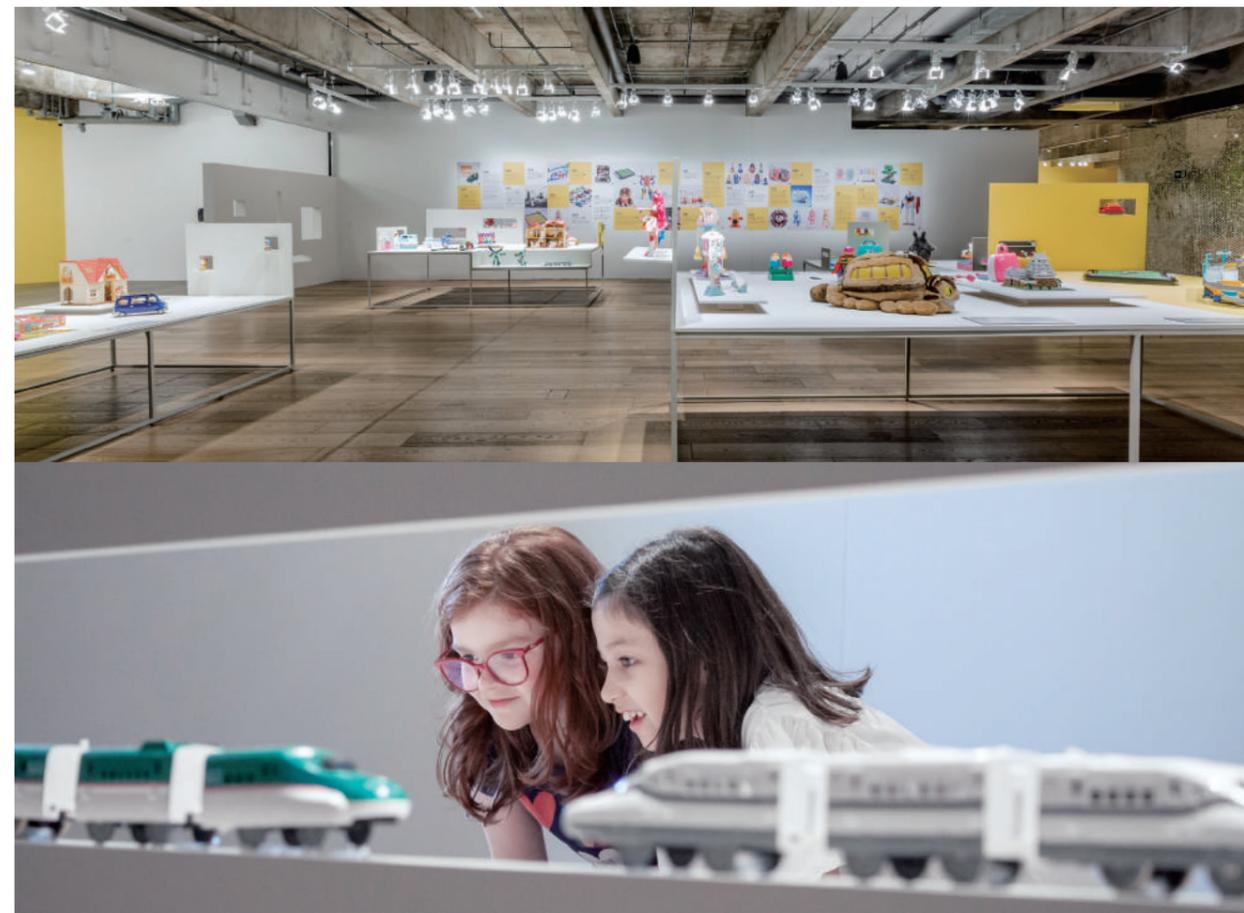
2023年6月27日—11月12日

来場者数：280,894人

〈オンライン展示継続中〉

協力：月刊トイジャーナル(東京玩具人形協同組合)  
Photo：Wagner Romano

地域性、時代背景、人々の生活を色濃く反映していると言われる日本の玩具。多種多様な玩具の展示と、インタラクティブな体験を通して日本の魅力を紹介。日本で約半世紀前に誕生し今でも不動の人気を誇る玩具、安心・安全へのこだわりや実用性を備えた日本ならではの視点で創り出された玩具、日本発、そして世界へと羽ばたいた玩具やゲーム、キャラクターなど現代の玩具を展示。



### 企画展関連イベント

#### イベント

子どもワークショップ  
ペーパーシナリオ

2023年7月15日、16日

日本とブラジルの風景や、場所からインスピレーションを受けた都市を紙を使って制作する子ども向けアクティビティを開催。



企画展

ロボットとの共生

2023年11月14日—2024年3月31日

来場者数：集計中

協力：日本貿易振興機構（ジェトロ）・サンパウロ、  
日本科学未来館、朝日新聞社  
Photo：Marina Melchers

ロボット感が生まれた。その日本ロボットが持つ「フレンドリーさ、人懐っこさ=フレンドリー・ロボット」を通して日本の特長的なロボット開発の側面を描き出し、「ロボットとの共生」について考える機会を提供。実際に触れあい、親しみを感じてもらうことを通してロボットと人間が共生する未来の可能性を紐解く。



企画展

NIHONCHA

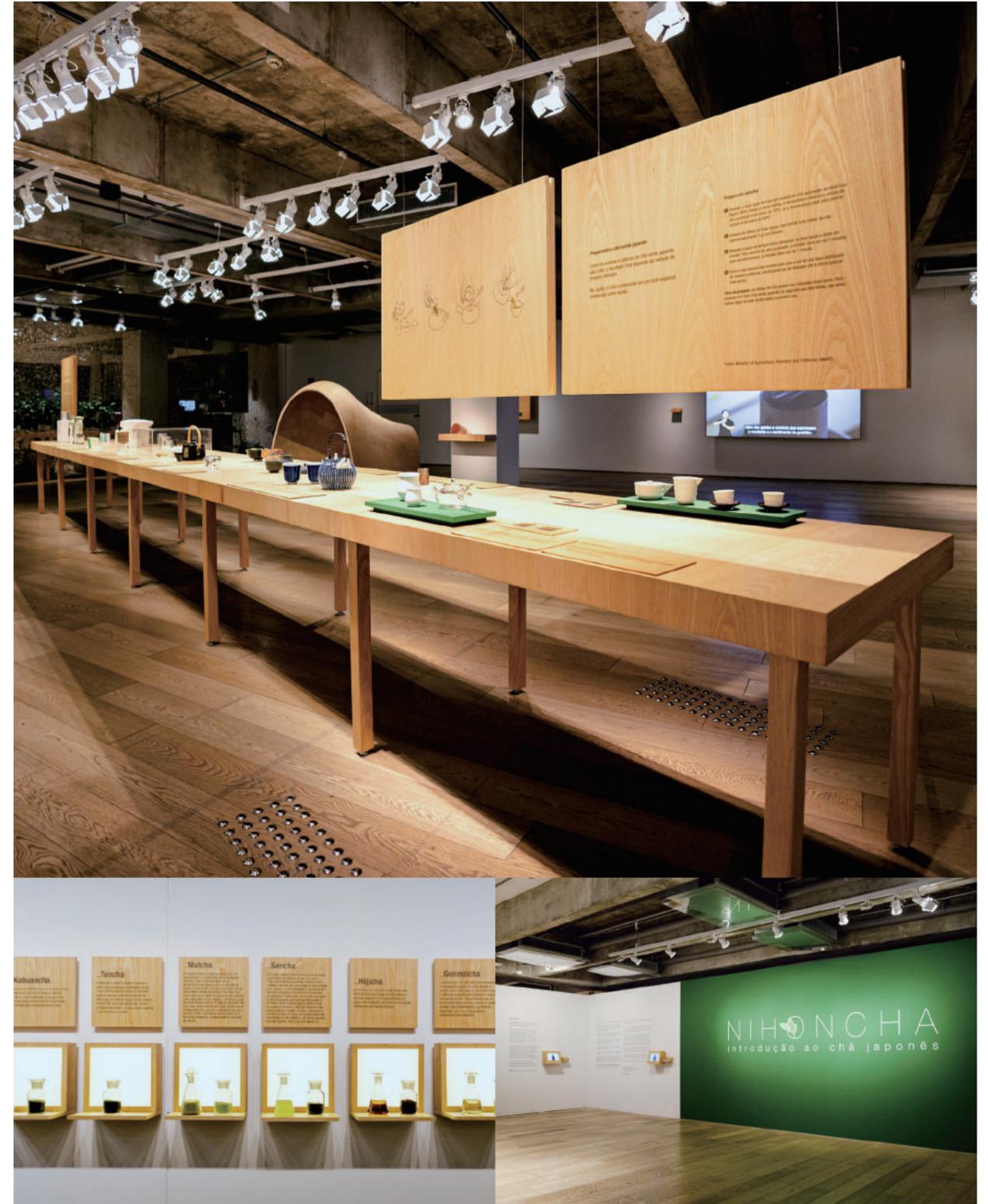
2023年12月5日—2024年4月7日

来場者数：集計中

〈オンライン展示継続中〉

協力：農林水産省、公益社団法人日本茶業中央会、NPO  
法人日本茶インストラクター協会、茶道裏千家ブラジル出張所、株式会社山本山 Photo：Marina Melchers

日本茶生産の全体像やサンプルを用いた茶葉の種類、茶道に息づく茶の湯の精神、伝統的なものから現在使用されているデザイン茶器、現代アーティストが手掛けた和室など日本茶の世界を紹介。日本茶の世界を探求し、日本茶のある暮らしを提案。



ツアー

ESSENCE:  
Inner Garden  
with Atsunobu Katagiri  
2023年3月7日

日本人と自然の密接な関係性をテーマにした没入型植栽展示『エッセンス：内なる庭』の片桐功敦氏によるガイドつきツアーを開催。日本人が考える人と自然の共存の重要性、またコロナウイルスによりロックダウンを経験した人々へ自然ならではの再生・再建力を発信した。



イベント

I am Flower—  
floral adornments  
with Atsunobu Katagiri  
2023年3月12日

片桐功敦氏の指導のもと、家族と一緒に花や植物を使い、自分たちで頭飾りを作ることができるアクティビティを館内で開催。最後に作ったヘッドドレスと一緒に記念撮影をし、身近な自然の美しさや儚さを体験することができた。



企画賞与

DŌ (道)  
—徳の極みへ—  
2023年6月24日—2023年8月6日  
共催：在ペルー日本国大使館  
会場：Parque de la Reserva (ペルー・リマ市)

日ペルー外交関係樹立150周年であった2023年に、中南米の横展開としてDŌ展をペルーで開催。展示をきっかけに日秘関係の絆を深める文化交流の一環となった。本展では、「武士道とは何か?」という問いから日本武道の力強さや美しさだけでなく、日本武道を通して得られる「礼の心」や合気道・剣道・空手道・柔道・相撲・弓道等の武道の歴史や精神性を写真、テキスト、映像、デモンストレーションを通して紹介。



ハイブリッド講演 \*\*

日本とその国際的関与

2023年7月21日

スピーカー  
渡辺 靖 | 慶應義塾大学教授  
モデレーター  
フェルナンダ・マニョッタ | アルマンド・アルバレス・ベンテアード財団 (FAAP) 大学教授



渡辺教授から、ウクライナ戦争は国際社会の関心事であるとし、北方領土問題を含む日露関係の現状や日本の立場について説明した上で、日本はロシアのウクライナ侵略をアジアで最初に非難したと指摘。続いて、日中関係、日本の防衛力強化の背景や「自由で開かれたインド太平洋」に向けた日本の取組について説明しました。

ウェビナー \*\*

核軍縮・不拡散：  
日本の見方

2023年11月16日

共催：ジェットウリオ・ヴァルガス財団 (FGV) 国際関係学部

スピーカー  
向和歌奈 | 亜細亜大学准教授  
モデレーター  
ペドロ・ブリーチス | FGV国際関係学部教授



核軍縮と核不拡散の政策は、核兵器がもたらす世界的な脅威への重要な対応です。唯一の戦争被爆国である日本は、その経験と歴史に根ざしたアプローチでより平和な世界を追求し続けることで、国際社会に貴重な視点を提供しています。向准教授から、G7広島サミットでの核兵器廃絶に関する対話や、包括的核実験禁止条約 (CTBT) の推進など含め、核軍縮・不拡散に関する日本の視座について解説しました。

オンライン講演

JAXA  
星出彰彦宇宙飛行士  
との対話

2023年11月29日

スピーカー  
星出彰彦 | 宇宙飛行士



冒頭、清水享在サンパウロ総領事から、日伯宇宙関連事業協力の取組 (先進的レーダー衛星及びAI技術を用いたブラジルアマゾンにおける違法森林伐採管理改善プロジェクト、JICA-JAXA 熱帯林早期警戒システム (JJ-FAST) 等) について紹介したことに続き、国際宇宙ステーションでのミッションを2度経験した星出氏から、宇宙での経験と遭遇した困難、宇宙滞在の様子などについて語りました。

企画展

Ainu Stories:  
Contemporary Lives  
by the Saru River

2023年11月16日—2024年4月21日  
来場者数：集計中  
〈オンライン展示継続中〉  
共催：北海道平取町

北海道平取町二風谷地区を中心に、アイヌ文化における伝統の継承と発展を紹介する企画。アイヌ文化の継承に携わる現代の担い手たちに焦点を当て、インタビュー映像や工芸品の展示を通して、言語・環境・工芸・歌と舞踊・食などをテーマにアイヌ文化の現在の姿を紹介する。また、英国と平取町の意外な歴史的交流も取り上げる。



企画展関連イベント

ハイブリッドイベント

沙流川地域にまつわる  
アイヌ古式舞踊実演

2023年11月17日—11月19日、2024年2月23日  
出演：平取アイヌ文化保存会

平取アイヌ文化保存会のメンバーによる、アイヌの伝統舞踊のパフォーマンスイベントを実施。来場者が舞踊を実際に体験し、基本的な動きを学ぶことができるワークショップも行った。



ハイブリッドイベント \*\*

木彫りの実演と  
ギャラリートーク

2023年12月11日、12日  
出演：貝澤 徹 | 木彫り作家  
加藤博文 | 北海道大学、アイヌ・先住民研究センター教授

著名なアイヌ工芸家で木彫りの名匠である貝澤 徹氏が、アイヌの伝統的な木彫りの技術と特徴を実演を交えて紹介。北海道大学、アイヌ・先住民研究センターの加藤博文教授とともにその芸術性についてのギャラリートークも実施。



展示 (SHOP内)

北海道の熊と鮭

2023年12月22日—2024年2月6日  
協力：八雲町木彫り熊資料館、ARAMAKI

北海道を代表するものとして広く知られている、木彫りの「鮭をくわえた熊」を中心とした、北海道の熊や鮭にまつわる様々な工芸品とその文化を展示ブースで紹介。



ハイブリッドイベント \*\*

アイヌ語と  
アイヌ口承文芸シリーズ

2024年1月12日—1月16日  
出演：平取アイヌ文化保存会、  
ジュリア・サラバンク | ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS) 教授

アイヌ口承文芸のトーク&パフォーマンス、アイヌ語ワークショップ、平取アイヌ文化保存会メンバーと英国の少数言語話者によるディスカッション、トークイベントを実施。



# 『Ainu Stories: Contemporary Lives by the Saru River』展

## 地域の活動に未来資源を見つける

未来につながっていくものこそが伝統であると、JAPAN HOUSE LONDONの企画局長であるサイモン・ライトは考えている。『Ainu Stories: Contemporary Lives by the Saru River』展の実現にあたりサイモンは北海道平取町への訪問を重ね、アイヌ文化の伝統を継承する現代の担い手と実際に対話し、リサーチを深めた。本企画展は繰り返し来場する観覧者が多いという特徴がある。サイモンが熱心に平取町に通い、現地の方々との交流を資源としてかたちづくられたコンテンツは知れば知るほどに、興味を刺激する展覧会と言える。明確な展望や目的をもつ行政が、JAPAN HOUSEを活用した好事例として記録しておきたい。

Photo : Ogawa Masaki



# JAPAN HOUSE LONDON 企画 2023年度

## ハイブリッドイベント \*\*

平取町の文化的景観：  
アイヌ風土の保全と継承

2024年2月27日

出演：長野 環 | 平取町役場 アイヌ施策推進課 アイヌ文化保全対策室 主任、木村美咲 | 株式会社平取町アイヌ文化振興公社 主任、島野健二 | 平取町役場 アイヌ施策推進課 主幹、加藤博文 | 北海道大学 教授

政府のアイヌ政策推進に基づき、様々な取り組みが行われているが、これらの施策が市町村単位ではどう実施されているか。アイヌ文化の保全とともにどのような工夫が必要かについて、平取町に尋ねた。



## ハイブリッドイベント \*\*

金澤翔子による書道実演

2023年4月1日、2日

協力：英国ダウン症協会  
出演：金澤翔子 | 書道家、金澤泰子 | 書道家

世界的に活躍する書家の金澤翔子氏による書道パフォーマンスをジャパン・ハウス ロンドン及びラングドン・ダウン・センターで実施。翔子氏の特徴であるダイナミックで力強い書道の実演後、その師であり母である金澤泰子氏が翔子氏の芸術的発展、創造的哲学、彼女の芸術に対する独特なアプローチについて語った。



## ハイブリッドイベント \*\*

日本の荒物  
展示とトーク

2023年6月16日—6月18日

協力：株式会社 松野屋  
出演：松野 弘

日常生活で使用する様々な日用品・荒物をショップ内の展示スペースで紹介。「暮らしの道具 松野屋」のオーナーである松野弘氏を迎えて、荒物の背景にある物語や作り手について語るトークイベント、目の不自由なゲストを対象に実際に荒物を手に取ってその素材や機能性を学ぶことができるワークショップも実施した。



ハイブリッドイベント \*\*

琉球びんがた  
トークとデモンストレーション

2023年10月27日—10月29日

共催：一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー  
協力：日本政府観光局 (JNTO)  
出演：上江田美希、小渡あずさ

沖縄の伝統工芸「琉球紅型」の染色家である上江田氏と普及伝承コンソーシアムの小渡氏が、講演会と紅型染技法の実演を行い、紅型の歴史や製作工程、伝統工芸を未来に伝承するための試みについて紹介。実際に紅型作りを体験できるワークショップも実施した。



展示 (SHOP内)

沖縄のやちむん

2023年10月13日—11月29日

協力：那覇市立壺屋焼物博物館

沖縄の焼き物「やちむん」をショップ内のブースで展示。茶碗や急須、シーサーのほか、泡盛用の酒器など様々な焼き物及び工芸品をその製法を交えて紹介、また販売も行った。



ハイブリッドイベント \*\*

歌舞伎の衣装  
トークとデモンストレーション

2023年11月22日

協力：アシュモレアン博物館、Indigo Rose Project  
出演：大久保洋滋、坂口 翠

オックスフォードのアシュモレアン博物館で開催中の「坂東玉三郎歌舞伎衣裳」展に合わせて、歌舞伎衣裳の華麗さと美しさを着付けの実演とトークで紹介するイベントを実施。会場には人気歌舞伎役者の実物衣裳も展示され、歌舞伎の舞台裏を間近で見ることができる機会を提供。



ハイブリッドセミナー \*\*

日英の戦略的パートナーシップ  
とインド太平洋地域に対する  
欧州の関与

2023年10月3日

共催：国際問題戦略研究所 (IISS)

パネリスト

森 聡 | 慶應義塾大学教授  
ビル・エモット | IISS理事長  
ギブール・ドラモット | 仏国立東洋言語文化大学 (INALCO) 教授  
モデレーター  
ロバート・ウォード | IISS日本部長兼地経学・戦略担当ディレクター



近年、日本は英国や欧州諸国との関係を深め、自由で開かれたルールに基づく国際秩序を追求し、米中の大国間競争やロシアのウクライナ侵略に対応してきました。英国は、2023年7月に環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定へ加盟し、また、欧州各国もアジアとの関係を強化するために経済・安全保障面での関与を強め始めています。インド太平洋地域における安全保障上の課題に取り組む上での日英のパートナーシップ及び欧州の関与について、日英仏の専門家が議論しました。

ハイブリッドイベント \*\*

和菓子職人・引網康博による  
トークとデモンストレーション

2023年11月1日

共同企画：富山県  
協力：日本政府観光局 (JNTO)

スピーカー

横田美香 | 富山県副知事  
引網康博 | 和菓子職人 (和菓子処「引網香月堂」4代目)



横田副知事から、立山黒部アルペンルートなどの自然や白川郷などの文化遺産等富山県の魅力について紹介。また、和菓子職人の引網氏が、四季の美しさを表現した和菓子の細工についてトークとデモンストレーションを行い、和菓子の魅力や富山県の茶文化について紹介しました。

ウェビナー \*\*

東南アジア：  
米中対立の中で  
バランスを模索する

2023年12月14日

共催：王立国際問題研究所 (チャタムハウス)

パネリスト

相澤伸広 | 九州大学准教授  
キャサリン・ジョーンズ | セント・アンドリュース大学講師  
ベン・ブランド | チャタムハウスアジア太平洋プログラム部長  
アイビー・クウェック | 国際危機グループ・フェロー  
モデレーター  
ビル・ヘイトン | チャタムハウス・アジア太平洋プログラム・アソシエイト・フェロー



米中をはじめとする外部勢力が東南アジアへの影響力に関する競争を激化させる中、同地域の各国政府はどのようにすれば緊張の高まりに対処しつつ、その主体性を維持できるだろうか？ 東南アジアはこれまで地政学的な対立の中心にあったものの、今日では同地域が受ける圧力は経済、技術、安全保障の多方面にわたります。東南アジア諸国政府がこの困難な時代にどのように取り組んでいるか、また、日本や英国、米国などの外部の大国が、この地域とより効果的に協力するにはどうすべきかについて議論しました。

企画展

POKÉMON  
× KOGEI  
Playful Encounters of  
Pokémon and  
Japanese Craft

2023年7月25日—2024年1月7日

来場者数：174,913人

〈オンライン展示継続中〉

監修：国立工芸館

協力：株式会社ポケモン、The Pokémon Company International

世界的人気コンテンツである「ポケモン」と「工芸」を掛け合わせ、人間国宝から若手まで、日本を代表する20名の工芸作家がポケモンのキャラクターを金工や漆工、染織などの工芸技術を駆使して表現した作品を展示。本展は、国立工芸館で好評を博した企画展「ポケモン×工芸展—美とわざの大発見—」展をベースに構成。



企画展関連イベント

ハイブリッドイベント \*\*

Artistry |  
Insights from  
Tsunekazu Ishihara and  
Masahiro Karasawa

2023年7月25日

協力：株式会社ポケモン、

The Pokémon Company International

出演：石原恒和 | 株式会社ポケモン代表取締役社長、唐澤昌宏 | 国立美術館国立工芸館館長

今回の展示会を実現された石原恒和社長と唐澤昌宏館長によるトークイベント。「日本の工芸」への尊敬をもって、工芸作品にスポットライトを当てたいという石原社長の思いや、工芸作品のコレクションに対するユニークな視点や知識をもつ唐澤館長によって、優れた作家や作品制作にまつわるバックグラウンドストーリーが語られた。



オンラインイベント \*\*

Artist Talk 1 |  
Exploring Pokémon in  
Japanese Craft

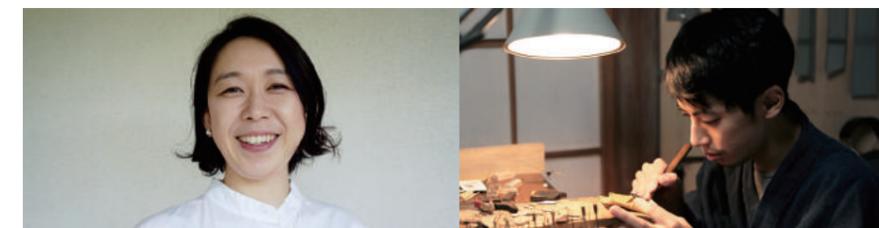
2023年9月12日

協力：株式会社ポケモン、

The Pokémon Company International

出演：榎本佳子 | 陶芸、福田 亨 | 木工

ポケモンたちのフォルムや見た目を工芸の技法で巧みに表現し、細部までこだわった作品づくりで注目される2人のアーティストによるトークイベント。完成した作品の背景や制作過程、技法について両アーティストの体験が語られた。



オンラインイベント \*\*

Artist Talk 2 |  
POKÉMON×KOGEI  
Artistic Journey

2023年10月11日

協力：株式会社ポケモン、

The Pokémon Company International

出演：吉田泰一郎 | 金工、池田見将 | 漆芸

Photo：左 Hiroaki Shinohara

右 Akifumi Nakagawa

科学とテクノロジーを革新的に融合させ、ポケモンを工芸的に解釈することで驚くべき結果をもたらした2人のアーティストによるトークイベント。日本の工芸を通してポケモンを探求するという創造的な挑戦のための、2人の独自のアプローチ方法について語られた。



オンラインイベント \*\*

Artist Talk 3 |  
Pokémon and  
Japanese Craftsmanship

2023年11月15日

協力：株式会社ポケモン、

The Pokémon Company International

出演：満田晴徳 | 自在置物、坪島悠貴 | 金属造形

金属造形

ポケモンの身体構造を研究してきた2人のアーティストが、そのプロセスやテクニックを語り合った。自在置物によって作品に表現されたポケモンの解剖学的構造を探求し、小型金物でポケモンが進化し姿を変える様子が表現されるという、展示では見えない彼らの作品の動きや内部構造が明らかにされた。



企画展

Designing with Disaster |  
Stories from Seven  
Regenerative Cities Inspired  
by the Great East Japan  
Earthquake and Tsunami

2023年1月27日—4月2日

来場者数：18,891人

〈オンライン展示継続中〉

企画：カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA)×LAB、  
東北大学災害科学国際研究所 (IRIDeS)、ArcDR3展  
覧会製作実行委員会

監修：阿部仁史UCLA教授

災害に対する防御力だけでなく、災害からの回復力にも着眼した、災害に強い都市デザイン。その先見的なアプローチをベースに作られた再生都市モデルを通じて、人と自然と都市の新しい共生関係の可能性について考えた試み。展覧会では、白い展示台の「井戸」をのぞき込むと7つの都市のストーリーが見える没入体験型の展示手法を採用。



イベント

Special Go Event  
with Kenro Osawa (4p)  
in Los Angeles

2023年6月17日、18日

主催：Santa Monica Go Club, PGT Education Inc.

協力：国際交流基金 ロサンゼルス事務所

出演：大澤健朗

大澤健朗棋士(四段)を招き開催された、2日間の囲碁の指導とデモンストレーションイベント。米国内外のアマチュア囲碁棋士に向け、大澤健朗棋士が囲碁セミナーを実施し、デモンストレーション対局、参加者との同時対局、大澤健朗棋士による棋評など、囲碁にまつわる様々なアクティビティが行われた。



イベント

Food as Practice  
Nurturing Healthy Mind,  
Body & Soul

2023年7月22日、9月2日

2024年1月27日、3月2日

出演：小島秀明、伊藤大雅

曹洞宗北米両大本山別院禅宗寺・小島秀明師や曹洞宗国際センター伊藤大雅師を招き、講義と試食を通して精進料理の真髄に触れられる新シリーズ。伝統的な僧院の生活を紹介する映像を交えながら、精進料理の基礎となる要素、禅の哲学と美学の深い体現について学ぶ。また僧侶の指導の元、瞑想と精進料理の体験が行われた。



イベント

Sip and Savor  
Japanese Tea Culture  
Exploration

2023年9月30日、11月18日、2024年1月21日

出演：岡田翔

日本茶の文化を探索するワークショップ。テイステイング体験に重点を置き、様々な日本茶(煎茶、ほうじ茶、抹茶、ハーブ茶etc..)の種類や地域性、楽しみ方、茶器等を学んだ。また日本茶の淹れ方やペアリングに関する知識と経験を深めることで、日本茶の新たな奥深さと、日常生活への取り入れ方等も紹介された。



イベント

LA×TOKYO: RE-SET |  
Finding Beauty and  
Meaning in Urban Chaos

2023年11月3日—11月5日

共催：アートセンター・カレッジ・オブ・デザイン、  
多摩美術大学

米国でも有数のプロダクト・デザインを学べるアートセンターと多摩美術大学の間では10年以上にわたり学術交流及び学生の訪日・訪米の研修プログラムが実施されている。2023年度は、「RE-SET | Finding Beauty and Meaning in Urban Chaos」をテーマにした学生の作品制作の中間発表、展示会が実施された。



イベント

UNLOCK CINEMA |  
Short Films, Infinite  
Possibilities

2024年1月11日

共催：ショートショート フィルムフェスティバル&アジア(SSFF)  
出演：別所哲也、高崎卓馬

JHLA開館5周年とSSFF 25周年を記念した映画と文化の祭典。2023年度のテーマは「Unlock」。短編作品を通じ、映像作家達とその可能性を開花させてきたことから、長編作品への架け橋としての短編作品の可能性が表現され、日本の新進気鋭の監督からアカデミー賞ノミネーション監督まで、多彩な顔ぶれの作品が上映された。



イベント

Oscar Series  
(アカデミー賞作品 関連イベント)

2024年2月6日、2月16日

共催：NEON、TOHO INTERNATIONAL  
出演：役所広司、ウィム・ヴェンダース、山崎 貴、高崎卓馬

権威あるアカデミー賞の受賞に向け、日本の優れた映画作品にスポットを当てたイベントシリーズ。作品の上映会、監督やプロデューサー等のトーク・プログラム、ネットワーキング・レセプションなどを組み合わせたプログラムを実施し、作品の認知度向上に向けて戦略的貢献を行った。



セミナー

日米貿易：経済安全保障の  
リーダーシップ

2023年9月5日

共催：アジア・ソサエティ

パネリスト

曾根健孝 | 在ロサンゼルス総領事  
ミッキー・カンター | 元米国通商代表  
ウェンディ・カトラー | 元米国通商次官/アジア・ソサエティ政策研究所 (ASPI) ワシントンD.C. オフィス副所長  
モデレーター  
ジョン・エマーソン | 元在ドイツ米国大使



国際経済と貿易のダイナミクスの変化に日米がどのように対応しているか、日米両国のアプローチについて議論。曾根総領事から、世界経済、エネルギー、サプライチェーン、食糧確保などの経済分野もG7の重要な議題であり、G7広島サミットでは、サプライチェーンの強靱化や経済的威圧など、より経済安全保障にも焦点が当てられた旨を説明した上で、米国の環太平洋パートナーシップ (TPP) 復帰への期待を表明しました。

セミナー

スポーツにおける  
ダイバーシティ

2023年11月13日

パネリスト

マイア・シブタニ | フィギュアスケート・オリンピックメダリスト  
遠藤 純 | サッカー選手、LAエンジェルシティ所属  
ウィリアム・アイアトン | LAドジャース・パフォーマンス・オペレーションズ・マネージャー  
モデレーター  
レナタ・シムリル | LA84財団CEO



冒頭、曾根総領事から、多様性・公平・包括 (DE&I) を実現する社会を醸成することは日本でも重要な取組である旨を説明。スポーツ界で活躍する日米のパネリストが、スポーツ界において、多様な背景の中でキャリアを築くためにどのように課題を克服したか、また、同業界をより包括的で多様性のあるものにする方法について議論しました。

ハイブリッドセミナー

社会のために  
量子技術を活用する

2024年1月18日

基調講演

パネリスト 第1部  
ジェイ・ガンベック | IBMフェロー、IBM Quantum バイス・プレジデント  
五味和洋 | NTT Research Inc. 代表取締役  
エリック・ハドソン | UCLA教授 プリネハ・ナラン | UCLA教授  
リクト・フクモリ | カリフォルニア工科大学博士候補生  
第2部  
碁盤見久 | 早稲田大学客員研究員/株式会社Nanofiber Quantum Technologies取締役CTO  
セリア・メルツバッハー | Quantum Economic Development Consortium エグゼクティブディレクター  
ポール・リップマン | Inflection チーフ・コマーシャル・オフィサー  
ジェフリー・ホーナン | ランド研究所シニア政治学者  
モデレーター  
エドワード・バーカー | ランド研究所物理科学者



量子科学分野の研究は、今日最も注目される分野のひとつで、日本政府としても基礎研究分野に加え様々な分野での実用化を推進しています。第1部は「量子科学分野の基礎研究：宇宙の理解を深める」と題し、基礎研究分野の研究者を発表。また、第2部は「応用量子技術：有用な量子技術を商業的に現実のものに」と題し、ビジネス界で実用化を進めている関係者による発表を行いました。

## 「ワールド・トラベラーを日本の誇りでもてなす未来。」

JAPAN HOUSEでは国内の事業者、行政に対しJAPAN HOUSEの周知を兼ねて年に一度、原 研哉（JAPAN HOUSE 東京事務局クリエイティブ・アドバイザー）を主軸にし日本の地域の魅力に関連した座談会を行っています。2023年度はサンドバーグ 弘 ウィリアム氏を迎え、佐賀県佐賀市にて開催しました。

### JAPAN HOUSE 地域座談会 2024

「ワールド・トラベラーを日本の誇りでもてなす未来。」

出演：原 研哉、サンドバーグ 弘 ウィリアム モデレーター：小島レイリ

2024年3月1日 SAGA MADO 来場者数：60人



### 参加者の声

私は、有田焼産業に代々携わる者で、現在は家業で呉須・釉薬の製造販売等を行いつつ、いかに有田焼を再興するかに情熱を燃やしています。その中の一つの取り組みとして「Arita Dining」という有田焼の文化体験ツアーを構築し、いかにワールドトラベラーに感動してもらえるか、有田焼のファンになってもらえるか試行錯誤しています。しかし、私はコンテンツの価値の高め方に壁を感じていました。

その折に、ふと目にした地域座談会の告知はまるで自分のために開かれるのかと錯覚するほどの好機で、次の瞬間には申込みを終えていました。

当日受講するにあたり、下記3つの問いを立てました。それは、

- 1 ワールドトラベラーは何を求めているのか？
- 2 Arita Diningの価値を高めるためには？
- 3 佐賀県が持つ価値・資産・資源とは？

です。受講した結果、結論から言うと、衝撃を受けました。

何をすべきか明確になり頭の中にかかっていた霧が晴れたのです。価値を高める答えは、自分の足元にあったのです。

ワールドトラベラーは日本固有の美意識に惹かれるということでした。私自身が、日本の美意識の象徴である伝統文化産業に携わりながらも、日本文化を理解していないからこそ価値の高め方が分かっていなかったのです。

今後は、他国や他の地域との差異を意識を集中させ、日本固有の美意識を表現の基礎とすることで価値を高めたいと思います。

さらに、私は日本国内でJAPAN HOUSEの巡回展が実現することを強く期待しています。

それは、自身が日本文化の本質をより理解する手助けになり、また、文化の発信者側が展示を含めた表現方法を向上させることに繋がると確信しているからです。

この度は、佐賀で素晴らしいイベントを開催いただき、誠にありがとうございました。人生を変える可能性があるイベントでした。

深海宗佑 | 株式会社深海商店

今回の講演は、JAPAN HOUSEの各事例を通じて、日本の文化を海外に発信する意義、並びにお二人が日本と向き合う視座から自身の地域への向き合い方へのヒントを得られる貴重な機会であった。

特に原さんの、いかに“知らないか”を分からせるというJAPAN HOUSEの戦略は大変腑に落ちるものであった。私は講演を通じて、初めてJAPAN HOUSEの拠点でどんな展示が行われているのか知ったが、これらで取り上げられている「日本の文化」はまさに我々日本人こそもっと理解を深めるべきものであり、その独自性に気付くことではじめてそこから日本文化に対する誇りを持つようになるのだと感じた。

サンドバーグさんのKirakuのお話では、京町家群を一つの旅館として再生した事例が印象に残っている。日本の町家は過小評価されているものが多いという課題から、一つの建物で拠点を作るのではなく、路地一帯も含めた視点で、点ではなく面での観光を築くという考え方は大変参考になるもので、事業としての成果だけではなく、通りを含むエリアリノベーション事例として大変価値あるプロジェクトだと感じた。

諸外国を数多く見られてきたお二方が議論の中で、「日本は観光資源において潜在力を持っており、オーセンティシティの宝庫でもある」と語っていたが、そのお言葉は地域で開催される本講演において非常に力強く感じるものがあった。海外では切り捨てられたような資源が、日本にはまだ多く残されており、それらを発見し、価値を構築していくことが重要であると講演を通して痛感させられた。

日本の未来について「アジアのスイスのように」という自然や過ごしやすさを資源の一つとして捉える原さんの発言に可能性を感じながら、さりげないものに価値を与えて構築する視点には自身もまちづくりに携わる者の一人として感化された。地域では減多に聞けない、グローバルとローカル、デザインとビジネスの話がクロスする、日本の先を見据えた大変貴重で有意義な講演であった。

松永一郎 | 福岡大学工学部助教



# JAPAN HOUSE

## JAPAN HOUSE SÃO PAULO

Av. Paulista, 52 - Bela Vista,  
São Paulo - SP, 01310-000, BRASIL  
<https://www.japanhousesp.com.br/ja/>

## JAPAN HOUSE LONDON

101-111 Kensington High Street,  
Kensington, London W8 5SA, UK  
<https://www.japanhouselondon.uk/>

## JAPAN HOUSE LOS ANGELES

Ovation Hollywood 6801 Hollywood Blvd.  
Level 2 and 5 Los Angeles, CA 90028, USA  
<https://www.japanhousela.com/>

ジャパン・ハウス東京事務局（外務省戦略的対外発信拠点室）

クリエイティブ・アドバイザー 原研哉

サンパウロ——株式会社電通

ロンドン——Japan H. L. Limited

ジョーンズ ラング ラサル株式会社（～2019年6月）

ロサンゼルス——株式会社電通ライブ

株式会社 ESP（～2019年6月）

[www.japanhouse.jp](http://www.japanhouse.jp)

